

大正軍八神社

【平安】

大將軍八神社は、京都が日本の首都となった 794 年に建立されました。この神社は、北西から来ると考えられていた悪霊を追い払うため、皇居の北西隅に建設されました。そのような考えは、伝統的な陰陽論的宇宙観（陰陽道）に根ざしていました。陰陽道は、道教思想に基づく神秘的な占術体系であり、当時の日本の政治や軍事における意思決定に大きな影響を与えていました。

大將軍八神社は、陰陽道で方位を司る星神・大將軍を祀っています。神社名に含まれる「八」は、大將軍の子供であり、共にこの神社に祀られている天体の神々の数を指しています。

神社の方徳殿には、大將軍の神像 80 体が展示されています。そのほとんどは鎧を着て荒々しい表情をしており、「大將軍」という名にふさわしい神の姿を描いています。方徳殿の 2 階にある別の部屋には、風水の儀式に関する物や、皇室の占星術師や予言者として有名な安倍晴明（921～1005 年）関連の品々が展示されています。